

トピック — 最近のキャベツ主産県の生産動向について —

キャベツの需要が、加工・業務用を主体に堅調に推移する中で、最近の主産県の生産動向の特徴を紹介する。

作付面積（平成18年=100）の推移を見ると、特に春キャベツ、冬キャベツが増加している。また、25年の出荷量は、対18年比で108%（127万6千トン）となり、種別では春キャベツは同114%（33万7千トン）、夏秋キャベツは同109%（41万1千トン）、冬キャベツは同104%（52万8千トン）と、特に春キャベツが大幅に増加している。

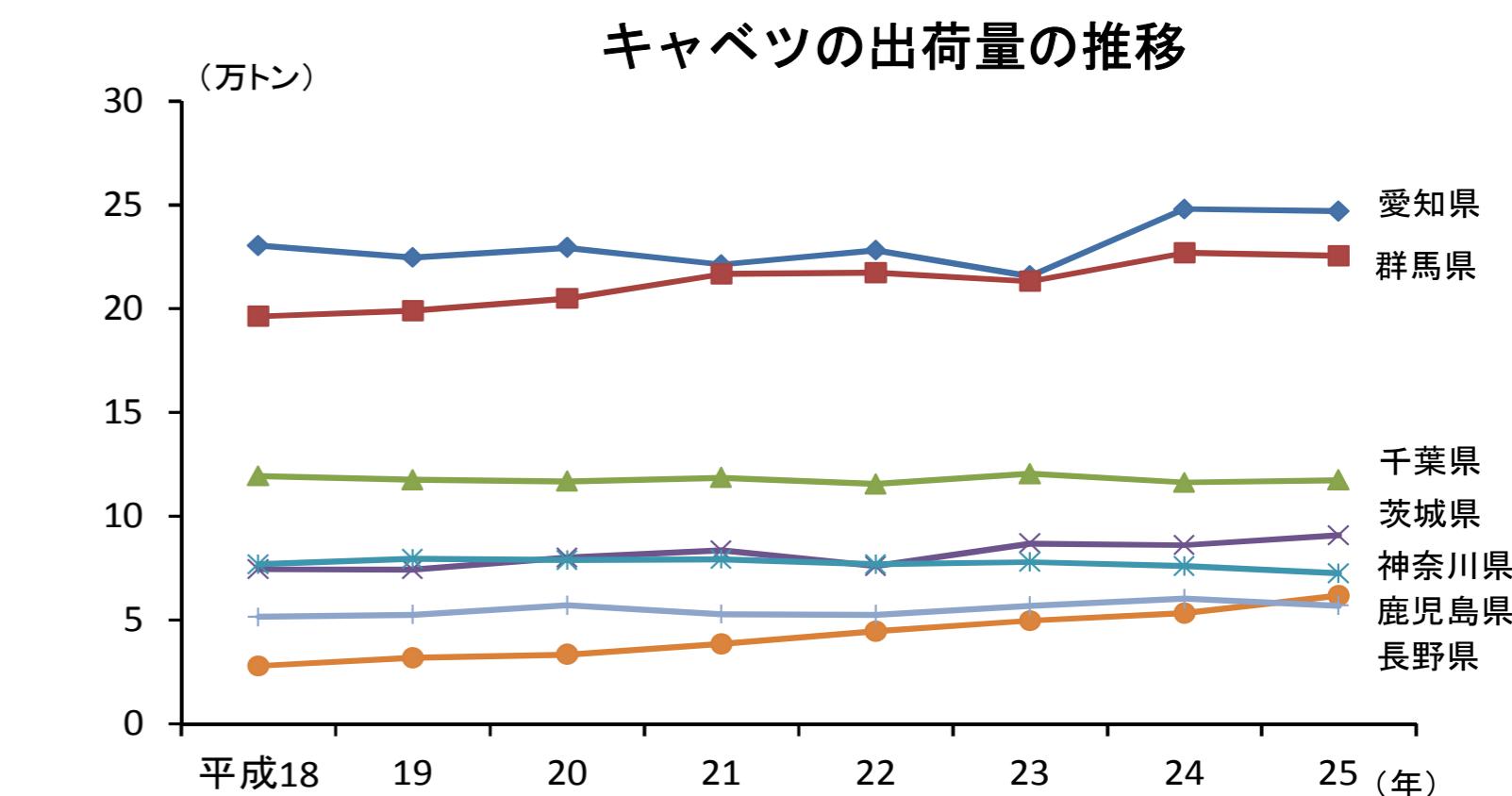
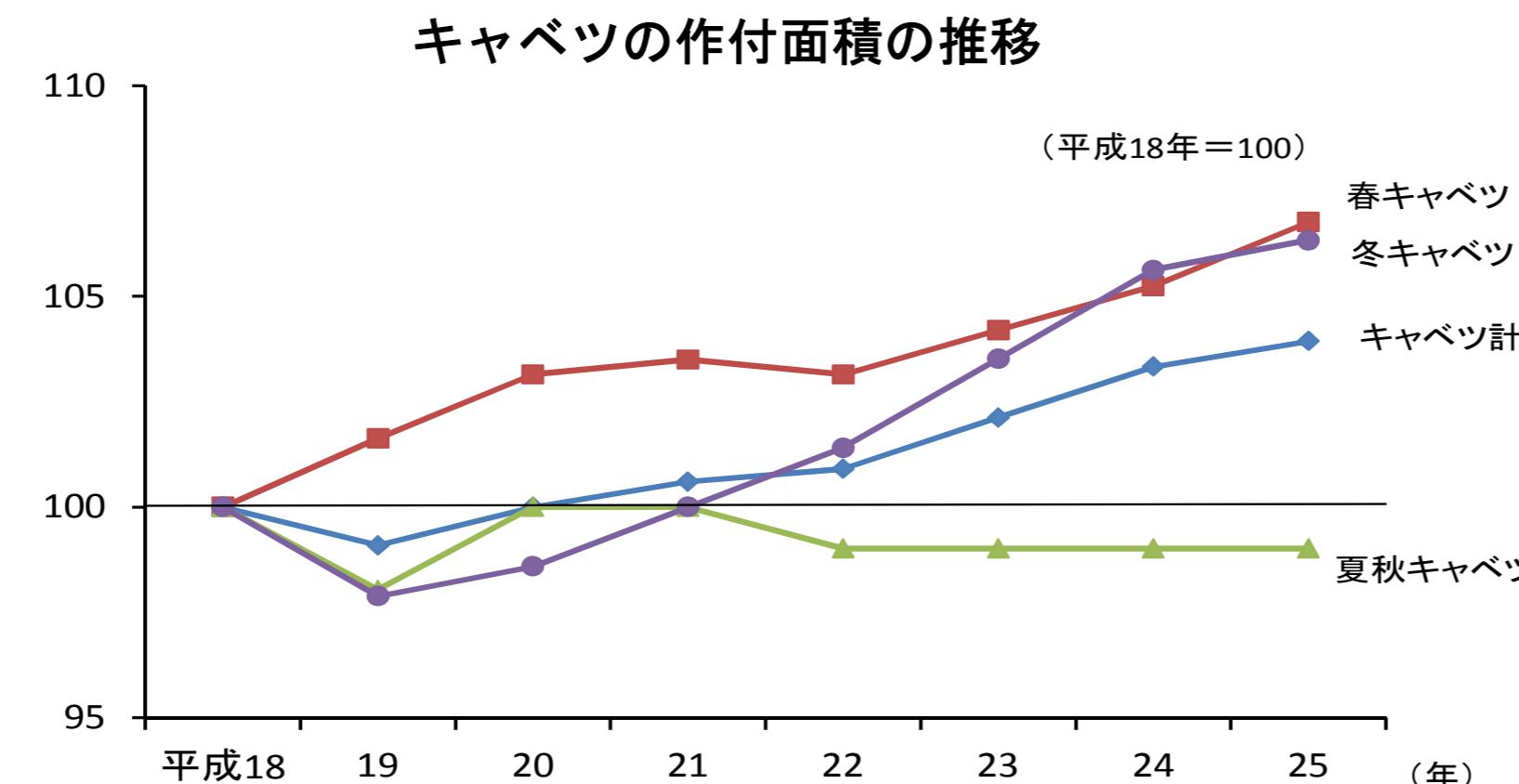
産地別の出荷量を見ると、上位3県（愛知県、群馬県、千葉県）で全体の約5割を占め、茨城県、神奈川県、鹿児島県、長野県がこれに続いている。最近は、鹿児島県が大きく増加し、平成25年には長野県を上回った。

種別産地別の出荷量を見ると、冬キャベツでは鹿児島県が同254%（4万7千トン）、春キャベツでは愛知県が同209%（6万2千トン）、鹿児島県が同164%（1万4千トン）と、それぞれ大幅に増加している。

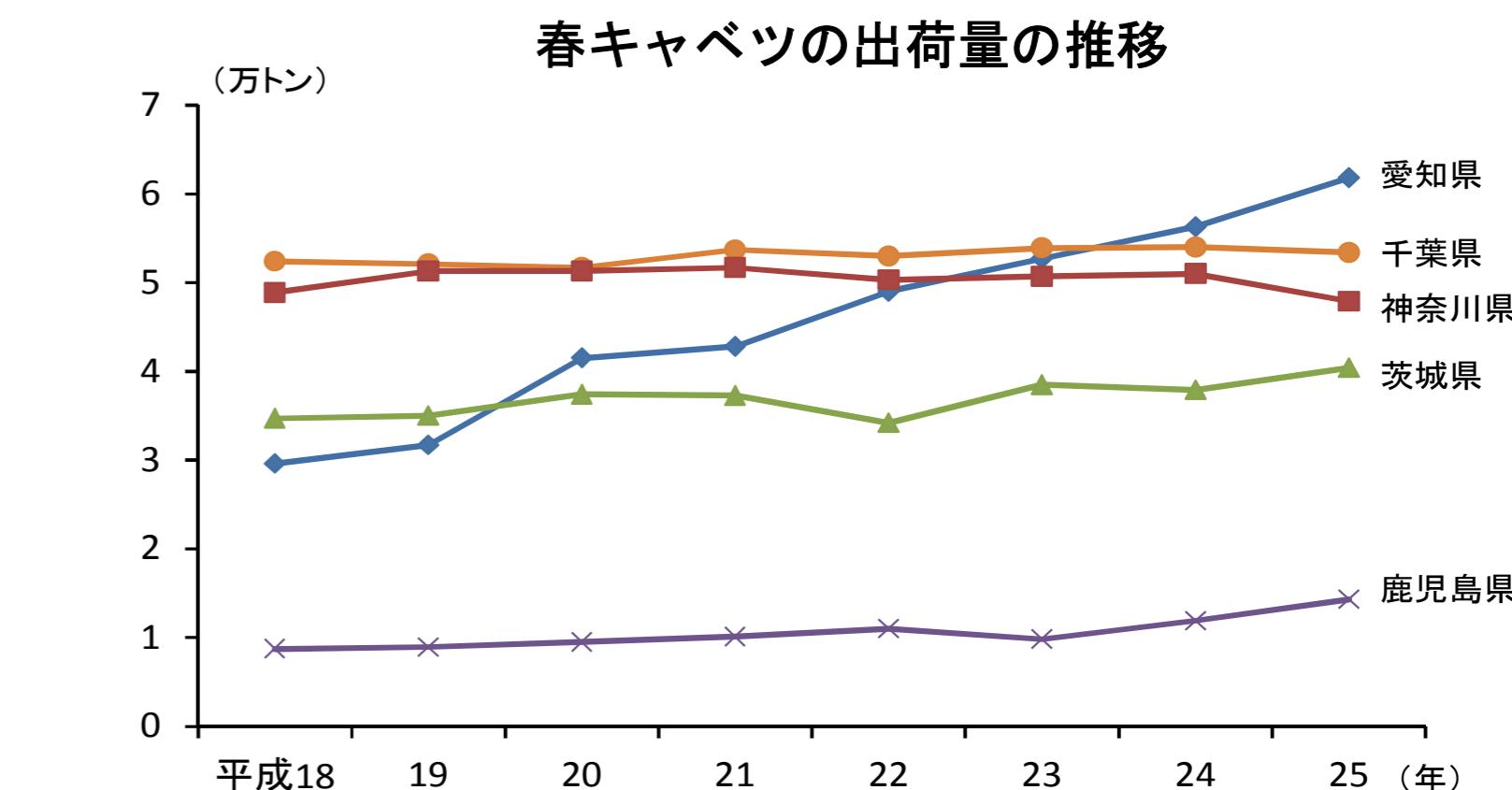
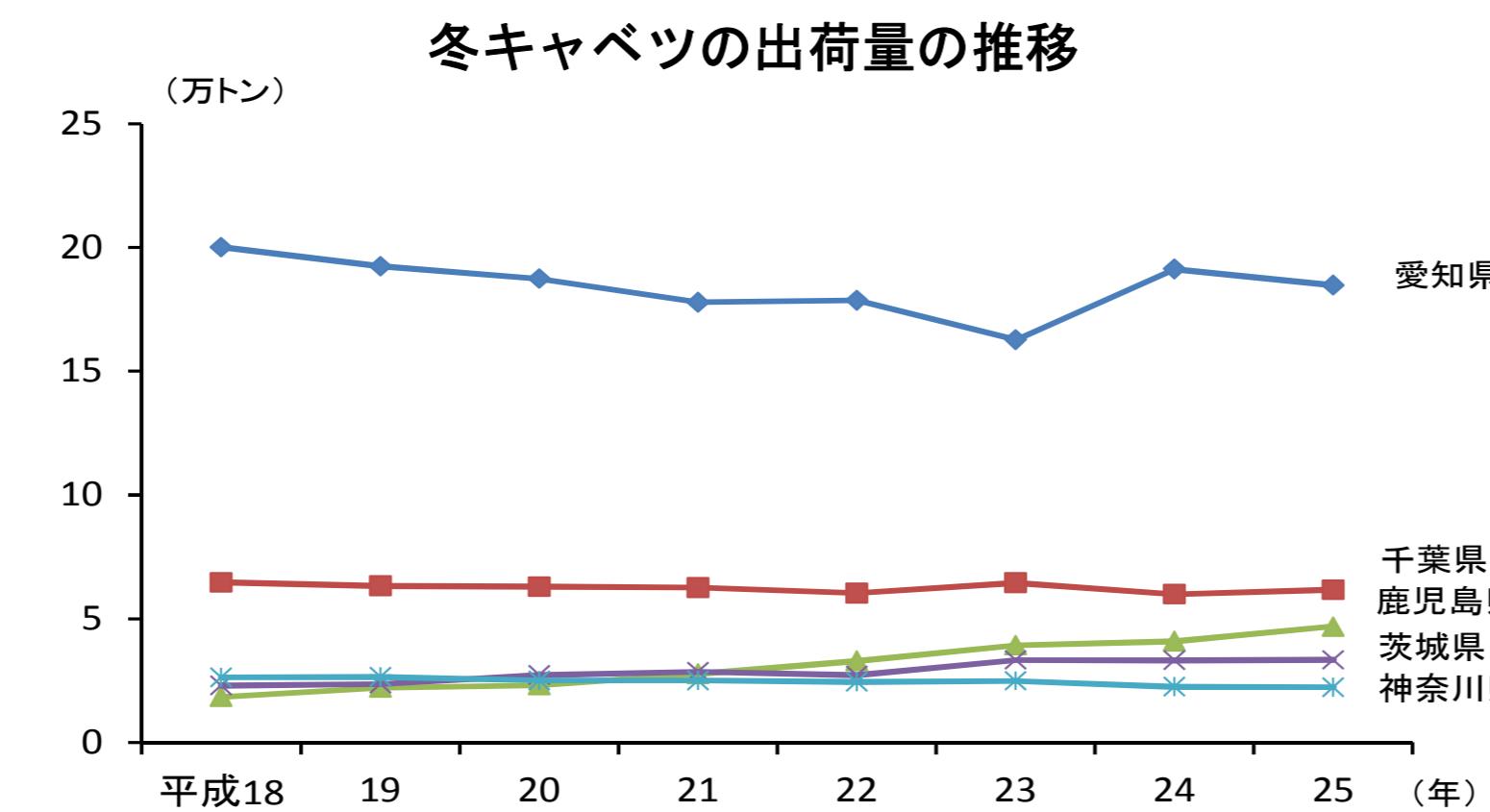
このように、鹿児島県と愛知県の出荷量が大きく増加する背景には、○従来から加工・業務用需要に適する寒玉系キャベツの供給が春先に不足傾向であること、○冬キャベツの大産地である愛知県が、春キャベツとして寒玉系の生産を5月まで拡大させていること、○鹿児島県が、冬から春先の温暖な気候条件を活かして加工・業務用を中心に生産を拡大させていること等があるとみられる。

このように、春先を中心に寒玉系キャベツも含めた生産の拡大が図られているが、本年4～6月の東京中央卸売市場の価格は、春先の天候不順の影響等から平年比で1割以上上回っている。

今後は、寒玉系キャベツの産地拡大の取組みに加えて、安定供給の取組みの強化が益々重要となってきている。



注：主たる出荷期間は、春4月～6月、夏秋7月～10月、冬11月～3月である。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、（原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」）

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。

※無断転載禁ず・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。